



あいさつする今田理事長と会場いっぱいの出席者

厚生協会だより

2015年9月21日
第 333 号

発行
公益財団法人
宮城厚生協会
〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：横山公樹

テーマ：いま地域医療と介護はどこに向かうのか

副専務理事 平賀 秀法

宮城厚生協会主催による公開シンポジウムが、9月12日に標記テーマで、ホテルメトロポリタン仙台にて約220名が出席し開催されました。

第一セッション

地域医療構想等への

現場からの声

第一セッションのシンポジストは、北村龍男氏（宮城県保険医協会前理事長）、道又第一氏（宮城県病院協会会長）、入間田範子氏（NPO法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ副理事長）で行なわれました。

討論にあたり、今田隆一理事長より、2025年に向けた医療提供体制など六つの視点が示され、各シンポジスト

よりそれぞれの立場から発言していただきました。

北村氏は、医療提供体制に関わり病床区分に触れ、診療報酬データで議論されている点で慢性期病床の削減に危機感を示し、医療問題を多くの国民に知らせる必要性を指摘しました。

道又氏は、国が示す在宅医療の矛盾点を指摘し、「桂・将監多種連携の会」の取り組みを例に、如何にして地域で在宅医療を支えていくかについて話されました。

入間田氏は、国が進める抑制政策による介護事業所の実態について説明され、国のシンクタンクが「家で自然にお



第一セッションシンポジストの3氏

亡くなりになることは珍しいことではなくなる。家族の心構えが必要。」と示したことに、非常に危機感を覚えると述べました。

第二セッション

国会議員による政策討論

第二セッションは、秋葉賢也衆議院議員（自由民主党）、桜井充参議院議員（民主党）、小池晃参議院議員（日本共産党）に出席いただき、三者の立場から発言し討論されました。

秋葉議員は、日本の医療の西高東低の状況、低所得者への支援、医療と介護の連携強化に触れ、医療提供体制の確保が進んでいないことを指摘



第二セッションシンポジストの3議員

しました。

桜井議員は、公的保険制度の維持について触れ、コスト、安全性と質、アクセスを上げ、日本の公的保険のすばらしさを示し、公的保険維持の必要性を強調しました。

小池議員は、安倍政権による社会保障の後退で医療と介護は危機的状況にあることを示し、地域全体で高齢者を支える仕組みづくりの必要性を訴えました。

三氏の発言後、シンポジウム開催にあたり寄せられた質問から「地域連携法人」「国民皆保険制度」などについてそれぞれの考えをお聞きしました。

最後に、コーディネーターから民主主義を守る立場で党派を超えてとして、「安保法案」に対する発言を各議員に求め討論を終了した。

坂総合病院救急・医療連携・教育ステーションの説明

シンポジウムに続き、小幡



報告する小幡副院長

篤坂総合病院副院長が、救急・医療連携・教育ステーションのコンセプト並び施設について説明を行ない、地域での救急医療・医療関係者の教育に貢献していくことを表明しました。

なお、予定していた「法人創立65周年 震災復興補助事業―坂総合病院救急・医療連携・教育ステーション完成記念レセプション」は、栃木県・茨城県、そして宮城県での河川の氾濫・土砂災害により多くの方が被災していることから、被災者の一日も早い復旧を願い取り止めとしました。

「地域のたまり場」にしたら？

震災後、若林クリニック奥の部屋に長町病院のデイサービスを臨時移設しましたが、昨年8月に長町病院新築に伴いデイサービスは再移転し、空き部屋になりました。

何か活用は？と考えていた頃、「地域のたまり場」にしたら？という声があがりました。

地域開放型 「若林ゆったりサロン」 オープン！



若林クリニック
所長
水戸部秀利

当時、地域包括ケアが話題になっており、介護予防関連事業の一部を地域の互助的組織に押し出す方向が政策的に出されていました。安上がりですが、「たたかいて対応」の視点からその受け皿になるようなものを模索しようと考えました。赤字続きの診療所ですから、お金をかけるわけにもいきません。

職員・友の会と介護事業実績のある高齢者生活協同組合、民医連OBなど数人に毎月集まってもらい、約半年間相談してきました。

早坂看護士の指導によるヨガ教室、友の会の歌う会や切り絵教室サークル、高齢協仲介によるそば打ち・食べる会などイベントを企画しながら、

ら、たまり場の構想を練ってきました。

モットーは「リラックス・交流・助け合い・学びあい」

昨年12月には、いくつかの候補の中から名称を「ゆったりサロン若林」と決め、切り絵教室の師匠である渡辺正美さんに写真のようなサロンの看板もデザインしてもらいました。本年4月の友の会総会に提案し、5月連休明けからオープンとなりました。

サロンのモットーは「リラックス・交流・助け合い・学びあい」としました。

常設サロンは、平日の10時～16時とし、受診の合間や散歩の途中で気軽に立ち寄っていただくようにしました。テーブル、椅子、ソファ、茶器、テレビ・オーディオ、麻雀、囲碁、将棋、ランプ、花札のゲームセットなど、備品のほとんどは、デイサービスの置き土産、友の会や職員、高齢協からの持ち寄りです。挽き豆式コーヒーセットは購入し、コーヒー代のみ1杯50円としました。





イベント企画は、ヨカサークル(毎週水・金午後)、切り絵サークル(毎月第2木曜午後)、歌う会(毎月第3木曜日午後)、お茶サークル(毎月第2火曜日午後)、脳トレ(毎週火曜日午前)などが始まり、7月からは麻雀教室(毎月第1・3月曜午後)もスタートしました。そば打ち・食べる会は好評で、3ヶ月1回くらい土曜日を利用しているのを計画しています。



地域公開の学習講演会も行ない、4月から毎月第一土曜日午後開催しています。4月からは3回シリーズで「認知症について」、7月からは3回シリーズで「介護保険について」を行なってきました。

*写真は、切り絵教室、そば打ち、認知症学習会のスナップ写真です。

イベント企画は各サークルで定着しつつありますが、街外れの立地条件や地域文化などから常設サロンの利用者は、まだ少なく今後の課題です。サロンのホスト役は、曜日を決めて民医連OB、友の会会員、高齢協スタッフのボ

ランティアで運用していますが、その善意に甘え続けて良いのかも課題です。

仙台市の介護予防事業として委託事業開始

本年7月に、サロンの実績を添付しながら、仙台市介護予防事業の「元気応援教室」の公募に手上げたところ受理され、9月から毎週火曜日

午後に、委託事業が開始されます。元気応援教室の経験のある長町病院の援助をいただきながらの運用ですが、予算と責任を伴う事業となります。

サロンのモットー、「リラックス・交流・助け合い・学びあい」の「助け合い」はこれからの課題です。地域の高齢化が進行する一方で、公的

社会保障の仕組みの切り捨て切り下げが強行される中、住民自らが自衛の意味でも互助的なソーシャルキャピタルを構築する必要性に迫られます。民医連の事業所や共同組織が、その役割を担う運動体の一つになることが求められているし、その力も内在していると思います。サロンはそのチャレンジです。

輝け世界に！伝えよう未来へ！

憲法9条を守り生かす

宮城のつどい2015'

11/7 (土) 13:00 ~ 16:00 (開場12:30)

仙台サンプラザホール 入場無料

講演

森 英樹 さん



名古屋大学名誉教授(憲法学)

合唱

宮城のうたごえ

「空襲で」 植島英子(子)手記より

「日本国憲法」前文

講演

池田香代子 さん



ドイツ文学翻訳家

「憲法9条の底力

—『戦後』を70年で終わらせないために—

「私たち、負ける気がしないんです」

■ 応募 10月30日までお申し込みください(1歳以上就学前)

■ 手紙と要約 手紙通訳と要約筆記をご用意しています

■ アクセス 駐車場が狭いため公共交通機関をご利用ください

主催/みやぎ憲法九条の会 協賛/宮城県内九条の会 連絡会

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台 5F

TEL 022-728-8812 FAX 022-728-5160 <http://www.9jou.jp/>

私たちは、戦争しない未来をつくる。今、ここから。

坂総合クリニックが 「宮城県認知症疾患治療センター(診療所型)」に 指定されました



(公財) 宮城厚生協会理事長

坂総合クリニック宮城県認知症疾患治療センター長 今田 隆一



宮城県から施設認定証を授与される今田理事長 (右)
クリニック1号館8階会議室

2015年8月3日(月)に宮城県の「診療所型認知症疾患治療センター」に県内5番目で坂総合クリニックが指定を受けました。宮城県から複数の担当者が来院され、クリニック小幡所長、神倉事務長、高橋看護部長同席のもと、私今田と阿部育美認知症看護認定看護師で認定証を受け取りました。このことは取材に訪れた河北新報記者によって翌々日の河北新報紙上に紹介されました。

始まりは
「物忘れ外来」から

指定への取り組みは平成26



あいさつする今田理事長と専任看護師の阿部さん
(隣り) およびクリニック管理部のみなさん

年2月に坂総合病院富山副院長とともに認知症サポート医資格を得たことに始まりましたが、もともとは8年前に坂総合病院にて開始した「物忘れ外来」によります。外来の中でお会いしたたくさんの方、ご紹介いただいた病院内の医師、地域の開業医の先生方の思いを具体化したものともいえます。今後とも微力ながら力を尽くしてセンターの役割を発揮して行きたいと決意を新たにしています。



地域的連携の 核となるべき任務も

さて認知症患者さんは急速にその数を増やしています。予備軍を入れるとすでに800万人を超えているといわれ、地域包括ケアの対象の大きな一翼となっているのはみなさんには周知の事柄と思います。

認知症疾患治療センターはそうした中で早期診断・治療の中心となるべき存在です



友の会の健康講演会で認知症についてお話しする今田理事長 (奥)

が、加えて早期支援チームメンバーの派遣、認知症疾患地域連携協議会の組織・運営などを通じて地域的連携の核となるべき任務も背負っています。

FETHECKが必要

また、さらに「民医連携し、安心して住み続けられる地域づくり」もめざして行きたいと考えています。そのためには今日、医療だけではなく、

○Foods (食)

○Employment (雇用)

○Transportation (公共交通)

○Housing (居住)

○Energy (エネルギー)

○Care (ケア)

○Knowledge (その研究)

のFETHECKが必要なのでは、と考えています。総合的な地域の変革の課題と結びつけて始めて意義のある取り組みができるものと信じています。

職員・役員のみならず、ご指導・ご鞭撻を切に祈念しております。



在宅診療スタッフのみなさん
後列左が佃さん

在宅電子カルテ運用拡大

古川民主病院在宅室看護師 佃 恵子



最初は不安と戸惑、
今は好評に

古川民主病院在宅室で、電子カルテを用いた訪問診療を7月中旬から始めて2カ月になりました。長らくの紙カルテによる診療スタイルから、電子カルテでの運用へ。

最初は、電波が届かない時はどうなる？電子カルテを在宅中に開いての作業が可能なのか？など不安と戸惑いがありました。2カ月目の現在は「非常にスムーズに導入できた」「紙カルテ作成の手間が省けた」と好評です。時折ネットワークが途切れる時はありますが、すぐ回復するこ

とができますし、患者様への説明の為にその場で電子カルテを使う事も、違和感なく始めることができます。

携わる先生方の感想は

古川民主病院では現在6名の医師が訪問診療に携わっています。その先生方に感想を伺いました。『パソコン画面上で過去カルテ、処方内容などをすぐ参照でき、変更指示を入力できるのは便利。』『薬になった。今まで訪問先でメモを取るのと、カルテの入力とで、二重の手間になっていた。』『車中で病棟とメールして対応できるのありがたい。』等々。

訪問時には看護師と協力しながら、各々の先生のスタイルで電子カルテが活用されています。

紙カルテから電子カルテのフル活用に改善

事務方面では、今までスタンプや手で紙カルテに記入していた看護記録や医事算定項目を、全て電子カルテで記入できるよう各部署と協力し、シムプレートを作成しており、



電子カルテ入力中の藤本たか子先生

それを使い入力しています。

今のところ医事との問題も起きておらず、今後はレセプト算定漏れ対策に役立っていくものと思われます。

8月からは、今まで紙で残していたケアマネージャーからの基本情報を、テンプレートから電子カルテに入力する作業を実践中です。

これが終了したら、いよいよ紙カルテを完全に使わない予定にしています。

当在宅室は現在病院の方針に則り、この電子カルテをフル活用した診療で、月2名増を目標に頑張っているところです。

宮城厚生協会からのお知らせ

◇建設基金の特典が終了します。

- ・人間ドック等の特典は2015年9月末をもって終了となります。

◇公益事業を支えるためみなさんのご協力をお願いします。

- ・協同基金（無利息で特典はありません）
- ・寄付金（税制上の優遇があります）





はなみずき介護福祉士 奥村 陽治

去年12月に開所した有料老人ホームはなみずきの奥村陽治です。
出身は青森県で、仙台に来て15年位になりますが未だに訛りが抜けてないとよく言われます。

私の趣味は料理

今回は私の趣味である料理について書かせて頂きます。

18年前に独り暮らしを始めてから、美味しいものが食べたいという理由で徐々に料理を作るようになりました。

昔はあまりレシピを参照せず、カンだけで作っていたので、生焼け、焦がす、味濃すぎ等が多々ありました。

生焼けや濃すぎは修正できますが、焦がすのはどうしようもなく泣く泣く処分し、時間と材料費をずいぶん無駄にしてきました。

そんな経験を積んで、今では皆さんに美味しいと言って頂ける料理も作れるようになりました。

好評だった料理、唐揚げ、カレー

ここから好評だった料理の紹介です。

まずは唐揚げ。作り方は、麵つゆ、酒、こしょう、チューブしょうがを、なんとなく美味しいかな?と感じる程度に混ぜあわせ、そこに大さじ2杯くらいのチューブにんにくを入れます、多めのにんにくがポイントです。後は鳥モモ肉を小さめの一口大に切り、半日位漬けて置きます。漬け終わったら粉の準備をします、自分は小麦粉と片栗粉を2対1で使用します。揚げるときは肉を小さく切っているの、わりかし短い時間で済みます。この唐揚げの欠点は冷蔵庫がにんにく臭くなることです。昔はにんにくチューブ半分位使っていましたが、冷蔵庫が臭くなるという苦情があるため量を減らし今の形になりました、ラップしても匂い漏れるんです。

次はカレーです。市販ルーを使い、いたってシンプルですが、玉ねぎを規定量の倍くらい使うのがポイントです。使う肉は主に牛すじ肉で煮込み時間がかかりますが、その分美味しくできます。牛すじ肉は一度アク抜きに下茹でしてから切ると楽です。玉ねぎはしんなりして甘い匂いがするまで炒めます。よく飴色になる迄まで炒めるとありますが、そこまで根性はないので手を抜いてます。後は肉と一緒に2時間位煮込んで、人参とじゃがいもを加えて更に30分位煮込みルーを入れて完成です。ちなみにルーは2種類入れます。一種類だと何か物足りないの。後は気分次第でチョコを入れてみたり、牛乳を足したりします。

今回は2種類しか紹介できませんでしたが、その他にも麵つゆやら切り干し大根の炒めもの、卵の花、鰯のなめろうなど食べたいと思ったものを作ってる内に色々できるようになりました。

これから秋になり美味しい食材がたくさん出てくる季節です、体重が増えすぎない程度に料理生活を満喫していきます。